

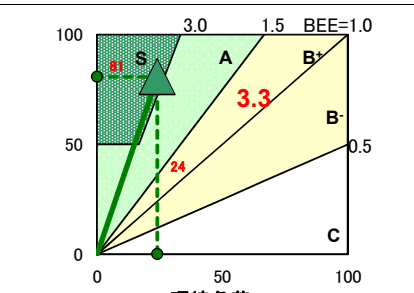


1-1 建物概要			1-2 外観		
建物名称	個人住宅	仕様等の確定状況	建物の仕様	確定	
竣工年月	2020年1月	竣工	持ち込み家電等	一部確定	
建設地	横浜市青葉区しらとり台	確定	外構の仕様	一部確定	
用途地域	第一種低層住居専用地域	確定	<備考>		
省エネルギー地域区分	6地域	確定	評価の実施日	2019年7月1日	
構造・構法	木造軸組工法	確定	作成者	宮崎隆雄	
階数	2	確定	確認日	2019年7月10日	
敷地面積	153 m ²	確定	確認者	大澤力	
建築面積	60 m ²	確定			
延床面積	108 m ²	確定			
世帯人数	4	確定			

2-1 戸建の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 3.3 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★



環境負荷 L

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

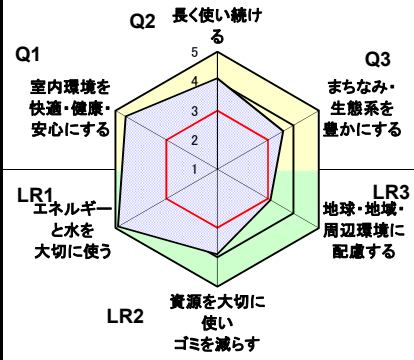
☆☆☆☆☆

戸建標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	73%
③上記+②以外の	29%
④上記+	29%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な住宅（参照値）と比べたライフサイクルCO₂ 排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)



Q1 室内環境を快適・健康・安心にする

Q2 長く使い続ける

Q3 まちなみ・生態系を豊かにする

LR1 エネルギーと水を大切に使う

LR2 資源を大切に使いゴミを減らす

LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境を快適・健康・安心にする

Q1のスコア = 4.6

暑さ・寒さ	4.9
健康と安全・安心	4.0
明るさ	5.0
静かさ	5.0

Q2 長く使い続ける

Q2のスコア = 4.1

長寿命に対する基本性能	4.5
維持管理	4.3
機能性	3.0

Q3 まちなみ・生態系を豊かにする

Q3のスコア = 3.6

まちなみ・景観への配慮	5.0
生物環境の保全と創出	1.7
地域の安全・安心	5.0
地域の資源の活用と住文化の継承	3.0

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギーと水を大切に使う

LR1のスコア = 4.9

総合的な省エネ	5.0
水の節約	4.5
維持管理と運用の工夫	5.0

LR2 資源を大切に使いゴミを減らす

LR2のスコア = 3.9

省資源・廃棄物抑制	4.0
生産・施工段階における廃棄物削減	3.3
リサイクルの促進	5.0

LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する

LR3のスコア = 3.1

地球温暖化への配慮	5.0
地域環境への配慮	1.5
周辺環境への配慮	3.0

3 設計上の配慮事項		その他
総合 自然エネルギーを活用した家づくりを目指し、断熱・気密化を図りながら、可変性のある間取に配慮した。総揮発性有機化合物の発生源になる建材を極力使用せず、良好な室内空気環境づくりを目指した。		
Q1 室内環境を快適・健康・安心にする 外皮平均熱貫流率(UA値)を0.52まで下げ、年間の消費一次エネルギーを削減。適切な彩風や計画換気システムにより室内の快適性を確保している。高効率エアコンによる適切な冷暖房計画がなされており省エネと快適性を両立している。	Q2 長く使い続ける 外壁はモエンサイディングの標準施工として外壁通気構法を用いており劣化対策の等級3に合致。屋根材には紫外線に強いガラスコートを施したコロンアルグラスを採用し、安心して長く使い続ける家としている。耐震等級3を満たしている。地震にも強く壁体内結露もなく計画換気システムで長期耐久性を維持する。	Q3 まちなみ・生態系を豊かにする 近隣の公園や河川等の生態系に影響を及ぼさない計画にした。新規樹木を計画し野鳥が隠れたり営巣したりできる空間の確保に取り組む。接道部には開放性や照明等で演出する工夫をしている。
LR1 エネルギーと水を大切に使う BEI=0.41とするなど総合的な省エネに取り組んでいる。庭の舗装部分を最小限として雨水の浸透を促す。高効率機器の採用、節水便器等節水機器の採用により水を大切に使う計画にした。照明器具はすべてLED照明を採用。HEMSによるエネルギー管理に取り組んでいる。	LR2 資源を大切に使いゴミを減らす 将来の解体・廃棄を見据えて建材を選定し、将来の解体時の省エネにも配慮した。	LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する 新規樹木について地域性のある植栽を検討している。室外に設置する設備機器の選定及び配置にも注意した。



4 横浜市重点項目についての環境配慮概要

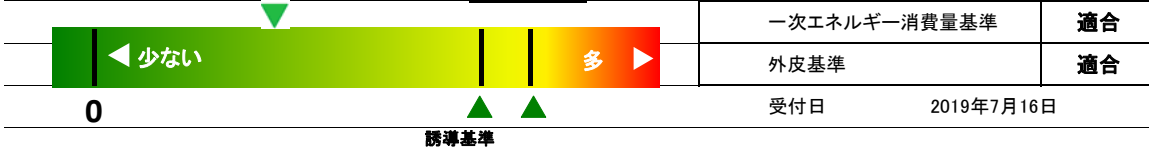
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。

建物名称 **個人住宅**

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving 重点項目への取組(5点満点) **【省エネルギー性能】 5**

■省エネルギー性能 (国土交通省告示に基づく表示)

この建物の設計一次エネルギー消費量 **59** %削減



■エネルギーを大切に使う (①建物の工夫 ②設備の性能 ③維持管理と運用)

- ①建物の工夫 BEI=0.41とするなど総合的な省エネに取り組んでいる 高効率機器、節水機器を採用した
- ②設備の性能 エネルギー消費区分(い)のエアコンを設置 太陽光発電4.37kWを搭載
- ③維持管理と運用 長期優良住宅適合証により維持管理等級3を満たす

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community 重点項目への取組(5点満点) **【健康・安心】 5**

■室内環境対策 (④暑さ・寒さ)

◆断熱等性能等級 等級4を超える (相当)

④暑さ・寒さ $U_a=0.52$

■室内環境を快適・健康・安心にする (⑤健康と安全・安心)

⑤健康と安全・安心 ダクト式第三種換気による計画換気を採用

■その他の対策 (⑥自然材料・通風の工夫など)

◆工夫の有無 **あり**

⑥自然材料・通風の工夫など 主要な居室において二方向に開口部がある

防災への配慮 (R) Resilience 重点項目への取組(5点満点) **【防 災】 5**

■災害に備える (⑦災害に備える ⑧長寿命に対する基本性能 ⑨地域の安全・安心)

- ⑦災害に備える 台所の収納扉に落下防止策がとられている
- ⑧長寿命に対する基本性能 長期優良住宅適合証により耐震等級3を満たす
- ⑨地域の安全・安心 道路側を開放しその他にも高い塀を造らず防犯灯等を設置

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape 重点項目への取組(5点満点) **【地域・まちづくり】 3**

■まちなみ・生態系を豊かにする (⑩まちなみ・景観への配慮 ⑪生物環境の創出)

- ⑩まちなみ・景観への配慮 植栽や外構等で調和を図っている
- ⑪生物環境の創出 植栽の連続、営巣空間を確保している

太陽光発電などの導入



太陽光利用

エネルギーマネジメントシステム導入

HEMS

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

蓄熱設備

CASBEE 横浜 [戸建] | 評価結果 | 31-059



CASBEE横浜[戸建] (2017年版)
個人住宅

バージョン : CASBEE横浜[戸建]2017年版v.1.1

スコアシート				
配慮項目	重点項目	評価点	重み係数	全体
QH すまいの環境品質		-	-	4.2
QH1 室内環境を快適・健康・安心にする		-	0.45	4.6
1 暑さ・寒さ		4.9	0.50	4.9
1.1 基本性能		4.8	0.50	-
1 断熱等性能の確保	健康・安心	5.0	0.80	-
2 日射の調整機能	健康・安心	4.0	0.20	-
1.2 夏の暑さを防ぐ		5.0	0.25	-
1 風を取り込み、熱気を逃がす		5.0	0.50	-
2 適切な冷房計画		5.0	0.50	-
1.3 冬の寒さを防ぐ		5.0	0.25	-
1 適切な暖房計画		5.0	1.00	-
2 健康と安全・安心		4.0	0.30	4.0
2.1 化学汚染物質の対策	健康・安心	5.0	0.25	-
2.2 適切な換気計画	健康・安心	5.0	0.25	-
2.3 犯罪に備える	健康・安心	3.0	0.25	-
2.4 災害に備える	防災	3.0	0.25	-
3 明るさ		5.0	0.10	5.0
3.1 屋光の利用		5.0	1.00	-
4 静かさ		5.0	0.10	5.0
QH2 長く使い続ける		-	0.30	4.1
1 長寿命に対する基本性能		4.5	0.50	4.5
1.1 躯体	防災	5.0	0.30	-
1.2 外壁材		4.0	0.10	-
1.3 屋根材、陸屋根		3.0	0.10	-
1.4 自然災害に耐える	防災	5.0	0.30	-
1.5 火災に備える		4.3	0.20	-
1 火災に耐える構造		5.0	0.65	-
2 火災の早期感知		3.0	0.35	-
2 維持管理		4.3	0.25	4.3
2.1 維持管理のしやすさ		4.0	0.65	-
2.2 維持管理の計画・体制		5.0	0.35	-
3 機能性		3.0	0.25	3.0
3.1 広さと間取り		4.0	0.50	-
3.2 バリアフリー対応		2.0	0.50	-
QH3 まちなみ・生態系を豊かにする		-	0.25	3.6
1 まちなみ・景観への配慮	地域・まちづくり	5.0	0.30	5.0
2 生物環境の創出		1.7	0.30	1.7
2.1 敷地内の緑化	地域・まちづくり	1.0	0.65	-
2.2 生物の生息環境の確保	地域・まちづくり	3.0	0.35	-
3 地域の安全・安心	防災	5.0	0.20	5.0
4 地域の資源の活用と住文化の継承		3.0	0.20	3.0
LRH すまいの環境負荷低減性		-	-	4.0
LRH1 エネルギーと水を大切に使う		-	0.35	4.9
1 総合的な省エネ		5.0	0.75	5.0
1.1 躯体と設備による省エネ	省エネルギー性能	5.0	0.90	-
1.2 家電・厨房機器による省エネ	省エネルギー性能	5.0	0.10	-
2 水の節約		4.5	0.15	4.5
2.1 節水型設備		5.0	0.75	-
2.2 雨水の利用		3.0	0.25	-
3 維持管理と運用の工夫		5.0	0.10	5.0
3.1 住まい方の提示	省エネルギー性能	5.0	0.50	-
3.2 エネルギーの管理と制御	省エネルギー性能	5.0	0.50	-
LRH2 資源を大切に使いゴミを減らす		-	0.35	3.9
1 省資源、廃棄物抑制に役立つ材料の採用		4.0	0.60	4.0
1.1 構造躯体		5.0	0.30	-
1 木質系住宅		5.0	1.00	-
2 鉄骨系住宅		3.0	-	-
3 コンクリート系住宅		3.0	-	-
1.2 地盤補強材・地業・基礎		4.0	0.20	-
1.3 外装材		3.0	0.20	-
1.4 内装材		4.0	0.20	-
1.5 外構材		3.0	0.10	-
2 生産・施工段階における廃棄物削減		3.3	0.30	3.3
2.1 生産段階(構造躯体用部材)		3.0	0.33	-
2.2 生産段階(構造躯体用以外の部材)		4.0	0.33	-
2.3 施工段階		3.0	0.33	-
3 リサイクルの促進		5.0	0.10	5.0
3.1 使用材料の情報提供		5.0	1.00	-
LRH3 地球・地域・周辺環境に配慮する		-	0.30	3.1
1 地球温暖化への配慮		5.0	0.33	5.0
2 地域環境への配慮		1.5	0.33	1.5
2.1 地域インフラの負荷抑制		2.0	0.50	-
2.2 既存の自然環境の保全		1.0	0.50	-
3 周辺環境への配慮		3.0	0.33	3.0
3.1 騒音・振動・排気・排熱の低減		3.0	0.50	-
3.2 周辺温熱環境の改善		3.0	0.50	-